

常翔学園



広島国際大学
Hiroshima International Univ.

実践臨床心理学専攻主催 国際シンポジウム

日時: 2011年6月19日(日)〈13:00~17:00〉
会場: 広島国際大学広島キャンパス 300号室

テーマ:「戦争とテロリズム、心理療法」

ニューヨーク市立大学教授のストロジャー博士は、歴史学者であると同時に精神分析臨床家でもあり、個人や歴史の中のトラウマを研究してきました。本専攻の一丸藤太郎教授は、日本の心理療法を牽引してきた臨床家で、広島の実験被害者に対する調査も行ったトラウマ研究の第一人者です。今回「戦争やテロリズム」が人の心に残す長期的・短期的影響と、それに対する心理療法について、日米のトラウマ研究の第一人者たちによるシンポジウムを開催します。

また、折しも東日本大震災において地震という災害によって多くの方が被害を受けました。震災のトラウマということも含めてともに考え、チャリティーとして参加者の皆様から被災者の方々への義援金を募る催しとしたいとも考えています。

タイムスケジュール

12:20~13:00

受付

13:00~13:15

開会の挨拶

実践臨床心理学専攻長 海塚 敏郎

13:15~14:45

講演「戦争とテロリズム、心理療法」

Charles B. Strozier, Ph.D.

休憩

15:00~15:30

講演「ヒロシマ原爆被爆者はどのように生き延びたのか」

一丸 藤太郎

15:30~17:00

パネルディスカッション

司会 富樫 公一

- Charles B. Strozier, Ph.D. (通訳: 葛西 真記子 鳴門教育大学)
- 一丸 藤太郎

シンポジスト

■ チャールズ B. ストロジャー博士

ニューヨーク市立大学歴史学教授、ニューヨーク市立大学ジョン・ジェイ校テロリズム研究所所長、TRISP 自己心理学研究所(ニューヨーク)教授、ニューヨーク市精神分析家免許・開業臨床精神分析家。博士は二つの顔を持つ。一つは、歴史家(特に近代の戦争やトラウマに関する歴史)であり、一つは精神分析家(精神分析的自己心理学)である。博士の持ち味は二つの専門領域にまたがって複合的な考え方で、人の心や戦争、歴史、トラウマをとらえることにある。博士は、『Heinz Kohut: The Making of a Psychoanalyst』(2001)という著作で、ゲーテ賞を受賞され、同書はまたピューリッツァ賞にもノミネートされた。

■ 一丸 藤太郎 広島国際大学実践臨床心理学専攻教授

広島大学教育学部教授・神戸松蔭女子学院大学を経て、現職。博士(心理学)・臨床心理士。W.A. ホワイ特精神分析研究所精神分析家。著書:『精神分析的心理学療法の手引き』誠信書房 1998年・『レクチャー心理臨床入門』(共著)創元社(大阪)2005 訳書:『精神分析における未構成の経験 解離から想像力へ』誠信書房 2003 など多数。

**入場
無料**

お気軽に
ご参加ください。

■定 員 / 180人(先着順)

■お問合せ先 / 広島国際大学 実践臨床心理学専攻事務室

〒730-0016 広島市中区鞆町1-5

TEL 082-211-5101 (担当: 高津) FAX 082-211-5138

■申 込 / 予約受付可。当日参加可(定員になり次第申込受付終了)。

予約参加の場合 FAX または上記住所に郵送にて①氏名

②所属③連絡先電話番号をご記入の上、お申込ください。

